

2019年度

第2回
自己評価委員会報告書

学校法人長野県理容美容学園

長野理容美容専門学校

自己評価委員会報告書

日 時：令和2年 2月26日（水） 10：30～13：00

場 所：松本理容美容専門学校 校長室

出席者名：(学園) 長尾理事長・嶋村副理事長・吉川事務局長・桐山広報企画部部長

(学校) 松林校長・柏原教務主任

長尾理事長挨拶

自己評価委員会の場は、自己の反省をふまえ、両校教育をより一層向上することのできる良い機会になっている。学校の教育内容・施設設備の充実など素晴らしい学校になっていると感じている。

今後、18歳人口減少に伴い学生募集がより厳しい時代になっている。早めに戦略を立て、前向きに取り組んでほしい。

【審議検討事項】

1. 2019年度自己点検・自己評価について（資料①参照）

2019年度報告として、7月自己評価委員会において中間報告した項目に加え、全項目の周知すべき点の報告を行った。

- (基準1)** **総括**：美容科は職業実践専門課程の認定校として、産学連携の授業内容により実践的な、卒業後即役に立つ技術を習得できるカリキュラム編成となった。ビューティビジネス科もブライダルの専門知識を学ぶ授業を組み入れることにより幅広いビューティビジネス業界で活躍できるカリキュラムとなった。
- ・就職については、美容・ビューティ関連の就職先がハローワークからの専門分野として任されており、100%の就職率・また卒業後の窓口として就職部がアフターフォローに手厚く相談指導に当たっている。

(基準2)

- ・職員の「働き方改革」により、現況の見直し、検討、改善に向けての取り組みが開始された。併せてそれによる学生指導についても工夫して指導にあたっている。学園から全職員に向けての説明。
- ・インスタグラムなどを活用し、学校の情報提供をするなどウェブサイトの充実を図っている。今後有効活用していく。
- ・時間内で技術を習得させる指導に向け、学生の自主性を促すように計画的に技術習得に向けての次への目標やポイントを絞った指導を行っている。

- (基準3)** **総括**：令和元年度より、美容科2年次選択授業計画としてNPO法人日本理美容福祉協会による福祉サービス授業を開始した。

教職員・講師ともに共通意識が大切になっていくと考える。

- ・平成31年度からの美容科2年次選択授業を始めた。
- ・ビューティビジネス科ではアシスタントウェディングプランナー検定の授業を開始。
- ・平成31年度からのNPO法人日本福祉協会による福祉理美容師の資格取得のための授業を開始。
- ・担当教員ごとにシラバスを作成している。定期的に学年会を行いつつ、外部講師と相談しながら調整し指導方法の統一をはかっている。
- ・キャリア教育の一環として産学連携授業を行うことにより、より誠実に取り組む学生が増えた。
- ・精神面における学生指導においては、ベテランの職員ですら年々難しくなっている。メンターとしてのスキルを上げていく講習会を実施予定。
- ・成績評価は明確に行っているが、「美容師免許」「日本エステティック協会認定上級エステティシャン」など独自の資格取得システムを目的とするため、一般的な基準としても明確化していく。

(基準10) 継続して、問題なく実施できている。

2. 重点目標について (別紙1・2参照)

○2019年度実施報告

- ① 整理・整頓・挨拶・礼儀 ②教職員の統一指導と技術向上 ③学生支援 ④学生募集

3月31日時点で2019年度重点目標の実施状況の報告

2020年度も引き続き、重点目標を中心に向上していく努力をしていく。

○2020年度目標課題

- ① 教育活動 ②学生支援・学修成果 ③学生募集

2019年度重点目標を軸に、各重点目標項目に具体的目標を追加した。

本年度以上に学校教育の質向上のため、職員全員で努力をしていきたい。

- 1) 豊かな人間性育成のために、挨拶・返事・整理整頓・清掃・品格を身に付けさせる。
- 2) プロフェッショナルの育成。
- 3) 職員の技術や知識を高めて、学生支援を充実させ、退学率の低減を図る。
- 4) 教育成果を正確に伝え、学生募集活動を充実させる。

3. 学校関係者委員会の報告 (別紙3)

- ・ 県内の業界発展のためにも、地元サロンとの協力体制を強化し、県外流出を防ぎ、学生獲得につなげてほしい。今後、サロンで活躍している卒業を上手に活用していく。
- ・ 学生募集の厳しい時代であるが、伝統校としての誇りを持ち、学費表示方法・オープンキャンパスの在り方など、時代をキャッチし検討して行ってほしい。
- ・ 働き方改革により、指導面で不足が出ないように、時間の使い方・分担制等工夫をして行ってほしい。
- ・ 離職率の低下を図るためにも、柔軟に対応できる能力・コミュニケーション力を高めるための教育を充実させてほしい。学校支援サロンを上手く活用できるよう、方策を検討していく。
- ・ 学校の取り組みについては、質の高い教育を実施出来ているので、評価している。

以上が、学校関係者評価委員会にて検討した事項の報告

4. 学生募集について

学生募集が厳しい時代に全国的に力を入れてきている。生き残れるために本学園として学生を獲得していく上で、どこをポイントに募集を行っていくことが大切である。

学生を引き込む力（セールス力）が重要となるため、戦略を検討して行ってほしい。担当者全員で意見を出し合っていく。

よりよい教育・よりよい施設の充実。在校生満足度。職員の意識向上が重要である。どれだけ危機感を全職員が持って行動していくかを大切になってくる。

次世代育成も必要な段階に来ている。

上記の内容をふまえ、

高校廻り・学校支援サロンの活用・オープンキャンパス動員増加・進路ガイダンスの在り方・人間力・セールス力・アプローチする力を、意見交換をしてマニュアルを強化していく。・・・3月16日検討会

5. 次回自己評価委員会

日 程：令和2年7月7日（火） 10時30分より

場 所：松本理容美容専門学校 校長室